

医薬品に共通する特性と基本的な知識

午前 (H29)

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべては説明されていない。
- b 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、その有用性が認められたものである。
- c 殺虫剤は、人体に対して使用されない医薬品であるため、人の健康に影響を与えることはない。
- d 医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられる一般用医薬品であっても、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問2

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- b 一般の生活者においては、一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることがある。
- c 医薬品は、医薬品医療機器等法において、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨が定められている。
- d 医療用医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっているが、一般用医薬品にはそのような仕組みはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問3

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と暴露量との和で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- b LD₅₀とは、動物実験で求められる50%致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
- c 医薬品の投与量と毒性の関係は、投与量を増加させるに伴い、治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。
- d 医薬品は、治療量を超えた量を単回投与した後に毒性が発現するおそれが高いが、少量の投与であれば長期投与しても毒性が発現するおそれはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 4

医薬品のリスク評価に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に (a) が制定されており、これに準拠した手順で安全な治療量を設定することが新規医薬品の開発に関連する臨床試験 (治験) の目標の一つである。

さらに、医薬品に対しては、製造販売後の調査及び試験の実施基準として (b) と製造販売後安全管理基準として (c) が制定されている。

	a	b	c
1	Good Laboratory Practice (G L P)	Good Post-marketing Study Practice (G P S P)	Good Vigilance Practice (G V P)
2	Good Clinical Practice (G C P)	Good Laboratory Practice (G L P)	Good Post-marketing Study Practice (G P S P)
3	Good Vigilance Practice (G V P)	Good Clinical Practice (G C P)	Good Post-marketing Study Practice (G P S P)
4	Good Clinical Practice (G C P)	Good Post-marketing Study Practice (G P S P)	Good Vigilance Practice (G V P)
5	Good Laboratory Practice (G L P)	Good Vigilance Practice (G V P)	Good Clinical Practice (G C P)

問5

健康食品に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「機能性表示食品」は、疾病に罹患^りしていない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨（疾病リスクの低減に係るものを除く。）を表示するものである。
- b 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中にはカプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で販売されているものも多いが、健康被害を生じた例の報告はない。
- c 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。
- d 「栄養機能食品」は、「特定の保健機能の表示」、例えばキシリトールを含む食品に対して「虫歯の原因になりにくい食品です」などの表示が許可されている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問6

医薬品の作用と副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の副作用は、薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）に大別することができる。
- b 通常、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病の治療を妨げることはない。
- c 薬という物質（薬物）が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- d 世界保健機関の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問7

医薬品によるアレルギー（過敏反応）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、思わぬアレルギーを生じることがある。
- b アレルギーは、内服薬で引き起こされることはあるが、外用薬で引き起こされることはない。
- c アレルギーは、医薬品の有効成分により引き起こされるものであり、薬理作用がない添加物により引き起こされることはない。
- d アレルギーには遺伝的な要素があり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 8

副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用とは、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものをいい、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものは含まない。
- b 一般用医薬品の場合は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。
- c 一般用医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても定期的に検診を受けるよう、医薬品の販売等に従事する専門家から購入者等に促していくことも重要である。
- d 副作用の重篤化を回避するためには、医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することが重要となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問9

医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
- b 医薬品の乱用が繰り返されると、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。
- c 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。
- d 小児への用量が定められていない医薬品を小児に使用する場合であっても、大人用の医薬品を半分にして飲ませれば、有害事象につながる危険性はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 10

医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 相互作用は、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄^{せつ}される過程で起こるものであり、医薬品が薬理作用をもたらす部位では起こらない。
- b 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間のみ、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えればよい。
- c 一般用医薬品は、単一の成分のみを含んでいることが多く、他の医薬品と併用しても、作用が強く出過ぎる危険性は少ない。
- d 相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 1 1

医薬品と食品との飲み合わせに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっているため、ニトログリセリン（舌下錠）では、通常よりも代謝されやすくなり、十分な薬効が得られなくなる。
- b 医薬品の代謝によって産生する物質（代謝産物）には、薬効があるものはない。
- c 総合感冒薬とコーヒーを一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取となる場合がある。
- d 生薬には、食品として流通可能なものもあり、そうした食品をあわせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 1 2

乳児又は小児の医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- b 小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しにくいため、中枢神経系に影響を与える医薬品の副作用が起こりにくい。
- c 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。
- d 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすいため、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 3

高齢者の医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、医薬品の副作用で口渇を生じた場合、誤嚥^{えん}（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなる。
- b 生理機能が衰えている高齢者であっても、一般用医薬品については、基本的には、定められた用量の範囲内で使用することが望ましい。
- c 高齢者であっても基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 1 4

妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- 2 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- 3 ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- 4 母体が医薬品を使用した場合には、血液－胎盤関門によって、医薬品の成分の胎児への移行はすべて防御される。

問 15

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用を生じることをプラセボ効果（偽薬効果）という。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- c プラセボ効果は不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。
- d プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は関与していないと考えられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 16

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならないため、配合されている成分は、高温や多湿等による品質の劣化を起しにくいもののみが使用されている。
- b 医薬品の外箱等に記載されている「使用期限」は、開封後に保管された場合に品質が保持される期限である。
- c 一般に、医薬品は、適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、医薬品の効き目が低下することはあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 17

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 世界保健機関によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」とこととされている。
- b 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者に対して、医薬品の販売に結びつけていくための情報提供を行うことが重要である。
- c 一般用医薬品を一定期間使用しても症状の改善がみられないときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- d 高熱や激しい腹痛がある場合、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて、適切な対処とはいえない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 18

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟とは、解熱鎮痛剤として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b サリドマイド製剤の副作用である血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、S体のみが有する作用である。
- c 日本では、サリドマイド製剤の催奇形性についての勧告が届いた後、速やかに販売停止及び回収措置が行われた。
- d サリドマイドによる薬害事件をきっかけとして、副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 19

スモンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b スモンに罹患すると、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- c スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
- d スモン訴訟は、国のみを被告として提訴され、国は、スモン患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいとの基本方針に立ち、各地の地裁及び高裁において和解がすすめられた。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 20

H I V 訴訟に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス (H I V) が混入した原料 (b) から製造された (c) の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	血友病	血小板	血液凝固因子製剤
2	白血病	血漿 ^{しょう}	血液凝固因子製剤
3	白血病	血小板	アルブミン
4	血友病	血漿 ^{しょう}	血液凝固因子製剤
5	血友病	血小板	アルブミン

主な医薬品とその作用

午前 (H29)

問 2 1

かぜ薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。
- b ブロメラインは、タンパク質分解酵素であり、まれに血痰^{たん}や鼻血などの出血性の副作用を生じることがある。
- c プソイドエフェドリン塩酸塩はアドレナリン拮抗成分であり、鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する。
- d グリチルリチン酸は、化学構造がモルヒネ骨格に類似していることから、鎮咳^{がい}作用を示すと考えられている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 2

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a しょうさい ことう 小柴胡湯は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。
- b しょうせいりゅうとう 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、感冒等に適すとされている。
- c こうそさん 香蘇散は、構成生薬としてカンゾウを含まない。
- d かつこんとう 葛根湯は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 3

解熱鎮痛薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリン (アスピリンアルミニウムを含む。) は、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日の 1 4 日前から服用を中止する。
- b イソプロピルアンチピリンは非ピリン系解熱鎮痛成分であるため、ピリン系解熱鎮痛成分の副作用に代表されるピリン^{しん}疹が生じることはない。
- c イブプロフェンは一般用医薬品において、1 5 歳未満の小児に対しては、いかなる場合も使用してはならない。
- d アセトアミノフェンは主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 4

解熱鎮痛薬に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

解熱鎮痛薬の有効成分によりプロスタグランジンの産生が抑制されると、胃酸分泌が (a) するとともに胃壁の血流量が (b) して、胃粘膜障害を起こしやすくなる。そうした胃への悪影響を軽減するため、なるべく (c) を避けて服用することとなっている場合が多い。

	a	b	c
1	増加	増加	空腹時
2	低下	低下	食後
3	増加	増加	食後
4	低下	増加	空腹時
5	増加	低下	空腹時

問 2 5

解熱鎮痛薬と頭痛に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 頭痛が頻繁に出現して24時間以上続く場合は、自己治療で対処できる範囲を超えていると判断される。
- b 解熱鎮痛薬は、頭痛の症状が現れないうちから予防的に服用することが適切である。
- c 解熱鎮痛薬の連用により頭痛が常態化することがあるので注意を要する。
- d 解熱鎮痛薬を使用したときは症状が治まるものの、しばらくすると頭痛が再発し、解熱鎮痛薬が常時手放せないような場合には、薬物依存が形成されている可能性も考えられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 26

眠気を促す薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の適用対象ではない。
- b ブロムワレリル尿素は少量でも眠気を催しやすく、それにより重大な事故を招くおそれがあるため、使用した後は、乗物や危険を伴う機械類の運転操作は避ける必要がある。
- c 15歳未満の小児では、抗ヒスタミン成分により神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。
- d 生薬成分のみからなる鎮静薬や漢方処方製剤の場合は、飲酒を避けることとはなっていないが、アルコールが睡眠の質を低下させ、医薬品の効果を妨げることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 27

眠気防止薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カフェインは腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の増加をもたらす。
- b カフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、通常の成人が約80時間であるのに対して、乳児では約3.5時間と短い。
- c カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質がある。
- d 眠気防止薬は、一時的に精神的な集中を必要とするときに、眠気や倦怠感^{けん}を除去する目的で使用されるものであり、疲労を解消したり、睡眠が不要になるというものではない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 28

乗物酔いと鎮暈薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分は、中脳にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- b ジフェニドール塩酸塩の副作用として、頭痛、排尿困難、散瞳による異常な眩しさ、口渇のほか、浮動感（体がふわふわと宙に浮いたような感じ）や不安定感（体がぐらぐらする感じ）が現れることがある。
- c 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）と総合感冒薬は配合成分が重複しないので、併用は避ける必要はない。
- d 3歳未満では自律神経系が未発達であるため、乗物酔いが起こることはほとんどないとされている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 29

小児鎮静薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴオウは緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- b ジンコウは、鎮静、健胃、強壯などの作用を期待して用いられる。
- c しょうけんちゅうとう小建中湯は、乳幼児に使用される場合には、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがある。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問30

鎮咳去痰薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジプロフィリンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- b ジメモルファンリン酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする。
- c ハンゲは、中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分として配合されている場合がある。
- d 麦門冬湯は、体力中等度以下で、水様痰の多い人に適すとされている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 3 1

口腔咽喉薬、含嗽薬とそれらの有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a トローチ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部にはやく行き渡るよう、口中に含み、噛み砕いて使用することが重要である。
- b 含嗽薬は、口内炎などにより口腔内にひどいただれがある人では、循環血流中への移行による全身的な影響も生じやすくなる。
- c 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して、クロルヘキシジングルコン酸塩が配合されている場合もある。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、お茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応するとヨウ素の殺菌作用が失われるため、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 3 2

胃腸に作用する薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和することを目的とする。
- b 健胃薬に配合される生薬成分は、独特の味や香りを有し、胃液の分泌を促して胃の働きを活発にする作用があるとされている。
- c 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする。
- d 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 3 3

健胃薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オウバク、オウレン、ゲンチアナ、リュウタンは、いずれも苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b センブリは、クスノキ科のシンナモムム・カシヤの樹皮又は周皮の一部を除いたものを基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c ユウタンは、クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。
- d 味覚や嗅覚に対する刺激作用による健胃成分として、乾燥酵母やカルニチン塩化物が配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 3 4

整腸薬とその有効成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 整腸薬は、腸の調子や便通を整える、腹部膨満感、軟便、便秘に用いられることを目的とする医薬品である。
- 2 腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌、ラクトミン、乳酸菌等の生菌成分が用いられる。
- 3 日本薬局方収載のケツメイシ、ゲンノショウコは、煎薬として整腸、腹部膨満感等に用いられる。
- 4 トリメブチンマレイン酸塩は、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることにより、消化管の運動を調整する作用があるとされている。

問 3 5

瀉下薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センナ、センナから抽出された成分であるセンノシド、ダイオウは、小腸を刺激して排便を促すことを目的として用いられる。
- b 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで、糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- c カサントラノールは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、乳児に下痢を生じるおそれがある。
- d ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問36

胃腸鎮痛鎮痙薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗コリン成分の作用は消化管に限定されないため、縮瞳により視界が暗くなったり、発汗等の副作用が現れることがある。
- b ブチルスコポラミン臭化物については、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- c パパベリン塩酸塩は、アセチルコリンと受容体の反応を妨げることで胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされている。
- d アミノ安息香酸エチルは、局所麻酔成分であるため、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問37

浣腸薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 便秘の場合に排便を促すことを目的として、結腸内に適用される。
- b 浣腸薬は、繰り返し使用しても、直腸の感受性の低下は生じない。
- c 腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合は、急性腹症の可能性があり、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。
- d 浣腸薬の剤形には、注入剤のほか、坐剤となっているものもある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 38

駆虫薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は、腸管内の寄生虫を駆除するために用いられる医薬品であり、一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、^{ぎょう}蟯虫と条虫である。
- b 複数の駆虫薬を併用しても駆虫効果が高まることはなく、組み合わせによってはかえって駆虫作用が減弱することもある。
- c サントニンは、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び^{ぎょう}蟯虫の運動筋を麻痺^ひさせる作用を示す。
- d パモ酸ピルビニウムは、^{ぎょう}蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 39

強心薬の有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
- b シンジュは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ等の外套膜^{とう}組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。
- c ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされている。
- d リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問40

高コレステロール改善薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として使用される。
- b ソイステロールは、低密度リポタンパク質 (LDL) 等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質 (HDL) 産生を高める作用があるとされている。
- c 血中コレステロール異常の改善は、生活習慣の改善が図られることが重要であり、高コレステロール改善薬の使用による対処は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけである。
- d ビタミンB1は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 1

貧血用薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。
- b マンガンは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- c ビタミンB12は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- d 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するために、鉄製剤は、食後に服用することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 4 2

痔疾用薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 外用痔疾用薬は局所に適用されるものであるが、坐剤及び注入軟膏では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて、全身的な影響を生じることがある。
- b 熱感刺激を生じさせるカンフルは、局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して配合されている場合がある。
- c ステロイド性抗炎症成分が配合された坐剤及び注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- d セイヨウトチノミは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 3

婦人薬とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- b 月経を促す作用を期待して、ブクリョウが配合されている場合がある。
- c ジオウは、ゴマノハグサ科のアカヤジオウ等の根又はそれを蒸したものを基原とする生薬である。
- d 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるアミノエチルスルホン酸は、^{ちっ}膣粘膜又は外陰部に適用されるものがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 4

婦人薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a うんせいいん 温清飲は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。
- b けいし ぶくりょうがん 桂枝茯苓丸は、体の虚弱な人に適すとされている。
- c しもつとう 四物湯は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症に適するとされている。
- d 医師の治療を受けている人では、婦人薬を使用する前に、その適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 4 5

アレルギーに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の (b) 内は、いずれも同じ字句が入る。

アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した (a) によって肥満細胞が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である (b) やプロスタグランジン等の物質が遊離する。肥満細胞から遊離した (b) は、周囲の器官や組織の表面に分布する特定のタンパク質と反応することで、血管 (c)、血管透過性亢進等の作用を示す。

	a	b	c
1	ヒスタミン	アドレナリン	拡張
2	ヒスタミン	アドレナリン	収縮
3	免疫グロブリン	アドレナリン	収縮
4	免疫グロブリン	ヒスタミン	収縮
5	免疫グロブリン	ヒスタミン	拡張

問 4 6

抗アレルギー薬の有効成分等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分によりヒスタミンの働きが抑えられると眠気が促される。
- b 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、カンゾウが配合されている場合がある。
- c メチルエフェドリン塩酸塩は、血管収縮作用により痒み^{かゆ}を鎮める効果を期待して、アレルギー用薬でも用いられることがある。
- d プソイドエフェドリン塩酸塩は、中枢神経系に対する作用がない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 4 7

アレルギーの治療に使われる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a しょうふうさん 消風散は、鼻の症状を主とする人に適すとされている。
- b いんちんこうとう 茵陳蒿湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの、じん しん 蕁麻疹、口内炎、皮膚のかゆ 痒みに適すとされている。
- c じゅう み はいどくとう 十味敗毒湯は、比較的体力があるものの鼻づまり、蓄膿症、慢性鼻炎に適すとされている。
- d しん い せいはいとう 辛夷清肺湯は、体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症に適すとされている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 8

コンタクトレンズ使用時の点眼法に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所(a)内は、いずれも同じ字句が入る。

コンタクトレンズをしたままでの点眼は、(a)、(b)に関わらず、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。

通常、(a)は水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、(c)に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。

	a	b	c
1	ハードコンタクトレンズ	ソフトコンタクトレンズ	角膜
2	ハードコンタクトレンズ	ソフトコンタクトレンズ	結膜
3	ソフトコンタクトレンズ	ハードコンタクトレンズ	角膜
4	ソフトコンタクトレンズ	ハードコンタクトレンズ	結膜
5	ハードコンタクトレンズ	ソフトコンタクトレンズ	網膜

問 49

目に用いる医薬品等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コンタクトレンズ装着液には、医薬部外品として認められているものがある。
- b 点眼薬は、容器が開封されてから長期間を経過しても、使用に支障はない。
- c 眼科用薬においても、全身性の副作用が現れることがある。
- d 医師から処方された点眼薬と一般用医薬品の点眼薬を併用しても、治療中の疾患に影響は生じない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問50

目の治療に用いる薬の有効成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑え、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- 2 イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の分解を促進する作用を示す。
- 3 アラントインは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- 4 コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

問5 1

皮膚の治療に用いる薬とその有効成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 外皮用薬を使用する際には、表皮の角質層が柔らかくなる入浴後に用いるのが効果的とされている。
- 2 ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石鹼^{けん}と併用する場合には、石鹼^{けん}分をよく洗い落としてから使用するべきである。
- 3 外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状の緩和を目的とするものである。
- 4 インドメタシンを、妊娠末期のラットに経口投与した実験において、胎児に動脈管の収縮が見られたとの報告がある。

問52

歯痛・歯槽膿漏^{のう}とそれらに用いられる医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯痛は、多くの場合、歯の齶蝕^うとそれに伴う歯髄炎によって起こる。
- b 歯痛薬は、歯の齶蝕^うによる歯痛を応急的に鎮め、歯の齶蝕^うを修復する医薬品である。
- c 歯肉炎が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がると歯周炎（歯槽膿漏^{のう}）となる。
- d イソプロピルメチルフェノールは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問53

口内炎及び口内炎用薬の有効成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- 2 口内炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解するが、一度に複数箇所に発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- 3 セチルピリジニウム塩化物は、口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- 4 一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることがある。

問54

禁煙補助剤とその有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ^{そしゃく}咀 嚼 剤である禁煙補助剤は、大量に使用することにより禁煙達成が早まる。
- b 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、誤って使用されると吐きけ、めまいなどの症状が現れやすい。
- c 禁煙補助剤は、口腔内が酸性になると、ニコチンの吸収が増加するため、口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- d 妊婦、妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性は、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問55

滋養強壯保健薬として用いられるビタミンAに関する記述について、
() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ビタミンA主薬製剤は、(a)、ビタミンA油、肝油等が主薬として配合された製剤で、目の乾燥感の緩和、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時等のビタミンAの補給に用いられる。一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は (b) 国際単位が上限となっている。

	a	b
1	レチノールパルミチン酸エステル	10000
2	エルゴカルシフェロール	6000
3	トコフェロール	6000
4	レチノールパルミチン酸エステル	4000
5	エルゴカルシフェロール	4000

問56

滋養強壮保健薬の配合成分とその配合目的の組み合わせについて、正しいものはどれか。

[配合成分]

[配合目的]

- 1 システイン・・・・・・・・皮膚におけるメラニンの生成を抑える。
- 2 ヘスペリジン・・・・・・・・骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す。
- 3 コンドロイチン硫酸・・ビタミン様物質で、ビタミンCの吸収を助ける。
- 4 グルクロノラクトン・・軟骨成分を形成及び修復する。

問57

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症が起こることが知られている。

- 1 おうれんげどくとう 黄連解毒湯
- 2 ぼういおうぎとう 防己黄耆湯
- 3 ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散
- 4 だいさいことう 大柴胡湯
- 5 せいじょうぼうふうとう 清上防風湯

問58

消毒薬の誤用・事故等による中毒への対応に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急措置として、通常は多量の牛乳などを飲ませる。
- 2 酸やアルカリが目に入った場合は、直ちに酸はアルカリで、アルカリは酸で中和するといった処置が適切である。
- 3 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹼^{けん}を用いて流水で皮膚を十分に（15分間以上）水洗する。
- 4 誤って吸入し、意識がない場合は、新鮮な空気^{けん}の所へ運び出し、人工呼吸などをする。

問59

次の記述にあてはまる殺虫成分として、最も適切なものはどれか。

除虫菊の成分から開発されたもので、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。

- 1 ジクロルボス
- 2 オルトジクロロベンゼン
- 3 メトプレン
- 4 ペルメトリン
- 5 フェニトロチオン

問60

一般用検査薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 一般用検査薬は、薬局や店舗販売業において取り扱うことが認められている。
- 2 一般用検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するように設計されている。
- 3 一般用検査薬の検出反応が起こるための最低限の濃度を検出感度（又は検出限界）という。
- 4 一般用検査薬の検査に用いる検体としては、血液が用いられ、鼻汁や唾液などは用いられない。